

演説用

IMF ハイレベル・セミナー  
商品価格の変動と、低所得国の包括的成長  
2011年9月21日

開会の辞  
クリスティーヌ・ラガルド  
国際通貨基金 専務理事

本日こうして、低所得国に関する大変有意義な IMF でのセミナーに皆様をお迎えすることができ、非常に光栄です。

本日は、2名のノーベル賞受賞者、指導的立場にある市民社会団体の代表、一流の政策決定者をはじめ、著名な方々が集まってくさっていますが、その顔ぶれが、これから話し合われる事柄がいかに重要であるかを如実に語っていると言えます。

今朝、私は、これまで10年間で低所得国が成し遂げた大きな前進とこれらの国々が抱える新たなリスク、政策バッファの早急な再構築の必要性、IMFの貢献のありかた、そして今後についての4点についてお話したいと思えます。

**これまでの進歩、新たなリスク**

これまで10年間に渡り、我々は低所得国が大きく変貌を遂げる様を目撃してきました。

その力強い成長により、何百万という人々が絶望的な貧困から抜け出すことができました。また、低所得国は先の世界金融危機もうまく切り抜け、急速な回復過程に入りました。今年、低所得国は平均で5%と力強い成長率を遂げると期待されています。

この見事なパフォーマンスは、途上国世界の政策決定に関わる皆さんの、過去10年間に渡る多大なる努力と尽力の証だといえます。赤字と公的債務の削減が実現しました。インフレは低下し、外貨準備高の積み増しが行われました。すなわち、マクロ経済のバッファを構築し、経済を基本的に一段と力強い基盤に乗せたのです。

しかし、良いニュースだけではありません。

2008年の食料・燃料価格危機や、それに続く世界金融危機は、貧困層に深刻な影響をもたらしました。そして、今年になり再び商品価格は高騰し、新たに4,400万の人々が貧困に陥りました。これに関しては、アフリカの角の大災害とともに、後ほ

ど国連世界食糧計画（WFP）のジョゼット・シーラン事務局長が、詳しくお話してください。

同時に、多くの低所得国のさらなるショックを吸収する能力が、過去二つの危機の影響から回復していない中、世界成長の下振れリスクは大きく上昇しています。

### 嵐を切り抜け、頑健性を再構築する

再び、低所得国は重要な局面に立っています。この困難な時代、どの様な政策が必要でしょうか。今後のショックに対する頑健性の回復に向けた、最善の方法はなんでしょうか。

世界を取り巻く環境がますます不透明感を増している中、他の多くの国々と同様、低所得国の政策決定者は、各国独自の環境に従い、必要に応じて政策を適応させる用意がなければなりません。

急速な景気後退がおこった場合、重要なことは極めて重要な支出を保護し、成長への影響を軽減し、最脆弱層を保護することです。反景気循環的な財政政策の余地が一段と限られていることから、インフレが穏やかであるならば、金融政策と為替レート政策を、より積極的に使うことも可能かもしれません。

次に、頑健性の回復の最善の方法について考えましょう。この場合、私は優先課題が3点あると考えます。

第一の優先事項は、好況時に「自家保険」を構築することです。

成長が力強く外部環境が良好な時に、赤字を抑制し外貨準備高を補強することは、理にかなっています。これは、不況時の、特に最脆弱層にある人々を保護するためのクッションを構築していることになります。

無論、自家保険の効力は限られています。ですから、低所得国は、ショックが起こった際、開発パートナーからの支援を引き続き期待できる必要があります。

第二の優先事項は、危機の間、最脆弱層の人々に支援が迅速かつ効果的に届くよう、ソーシャル・セーフティ・ネットの強化に努めなければなりません。

ここでは、ブルキナファソのミーンズテストを伴う食料引換券プログラムや、シエラレオネの学校をベースとした給食プログラムなどが例としてあげられます。このようなプログラムは、特に食料価格が高騰した場合、そして、政府の支援が生死を分ける場合に重要です。

第三の優先課題は、より長期に渡る頑健性を強化するために、構造改革を行なうことです。

多様化が進み、僅かな製品や貿易パートナーに過度に依存していない経済ほど、ショックにうまく対応することができます。

また、国内資源のより効率的な活用も重要です。例えばケニアでは、モバイル・バンキングの改革を通し金融部門が深化しています。これにより、サービスにアクセスがない人々も、より多くのクレジットを手にすることができます。税基盤の拡大なども重要です。

また、経済の多様化が進むことで、一段と*包括的な*成長、すなわちより多くの人々の雇用を創出し利益をより広く共有する成長が、実現する可能性が高くなります。最近の経験から、社会的側面が長期的安定にどれほど重要であるかは明らかです。

もちろん、一次製品の輸出国は近年の価格高騰の恩恵を受けていることでしょう。これらの国々では、価格高騰の利益を賢く活用し、マクロ経済の安定性の維持のみならず、天然資源からの利益を社会全体・各世代に公平に分配することが課題です。

### **IMF はどのような貢献ができるか。**

これは、広くそして非常に難しいテーマです。進むべき道を定め優先事項を決めるのは、低所得国自身です。そして、これらの国々への支援は、我々ドナーコミュニティと国際機関の役目です。

IMF に関しては、IMF が我々の低所得国の加盟国のニーズにこれまで以上に慎重に耳を傾けるなど、ダイアログを深めることで、より効果的な支援をすることができるようになるでしょう。

私は個人的に、このより深いより実りあるダイアログにコミットしています。

ここ数年で IMF が学んだ重要な教訓の一つが、我々の金融支援が効果的であるためには、支援が加盟国に迅速にかつより少ない条件で届かねばならないということです。また、成長を支え最脆弱層の人々を保護するために重要な支出を行う、十分な余地を残したものでなければなりません。

このことから、我々は IMF の融資制度をより柔軟なものにしたのです。

我々は2年前、譲許的融資メカニズムの能力を170億ドルへと拡充しました。これは2014年末まで有効です。さらに各国が引き出せる額も倍増しました。また、全て

の譲許的融資の金利を削減し、2011年末までゼロ金利としています。我々は、来年も金利をゼロ若しくはその近傍で押さえる予定です。

現在のより差し迫った問題については、我々はアフリカの角の危機への対策を支援すべく、国際パートナーと密接に協力しています。特に、旱魃の大きな被害の影響への対処に追われるジブチ・ケニアの両政府に対し、追加的金融支援を行うためのプロセスを進めています。

## 今後

今後、低所得国が危機を回避することができるよう、そして、危機に襲われた場合の対処に向けより良く準備を整えておくことができるよう、我々はどのような支援を行うことができるでしょうか。まさに、ことわざにもある通り「備えあれば憂いなし」です。

世界経済の相互関連性は、貿易と金融を通し高まり続けています。この相互関連性に対する我々の理解を深めることが、不可欠なことは明らかです。

我々は、このために様々な新しいツールを開発していますが、「脆弱性エクササイズ」もその一つです。この新しいエクササイズは、特に低所得国を支援するために活用されます。このようなツールにより、我々は主なりスクと、その政策への影響を浮き彫りにすることができるでしょう。

また、我々は、政策バッファの再構築に努める各国当局と、重要な支出とより長期的な開発目標を守りながら、緊密に連携していきます。

さらに、政策を策定し実施するための低所得国の能力の強化に向けた支援も継続していきます。アフリカ地域では5ヶ所目、全体では9ヶ所目となる地域技術支援センターを、来月モーリシャスに開設します。

## 終わりに：状況の改善に取り組む LIC 諸国を支援する

近年、低所得国は大きな進展を遂げてきました。これは、賞賛に値するものです。しかし今日、この成果が危機にさらされています。

IMFをはじめとする国際社会は、自身のおかれている状況の改善に取り組む低所得国に対し、更なる支援を行う準備を整えておかねばなりません。

援助のコミットメントは守られなければなりません。

貿易のチャンネルは引き続き開かれていなければなりません。

民間投資を促進しなければなりません。

我々は皆、自らの役割を果たさなければなりません。そうすることで、私は、低所得国は危機の新しい段階も持ちこたえることが出来ると、そして世界で最も貧しく最も脆弱な立場にある人々に永続的な利益をもたらすことができるのだと、確信しています。

ご清聴ありがとうございました。刺激に満ちた実りある議論が行われることを願っています。